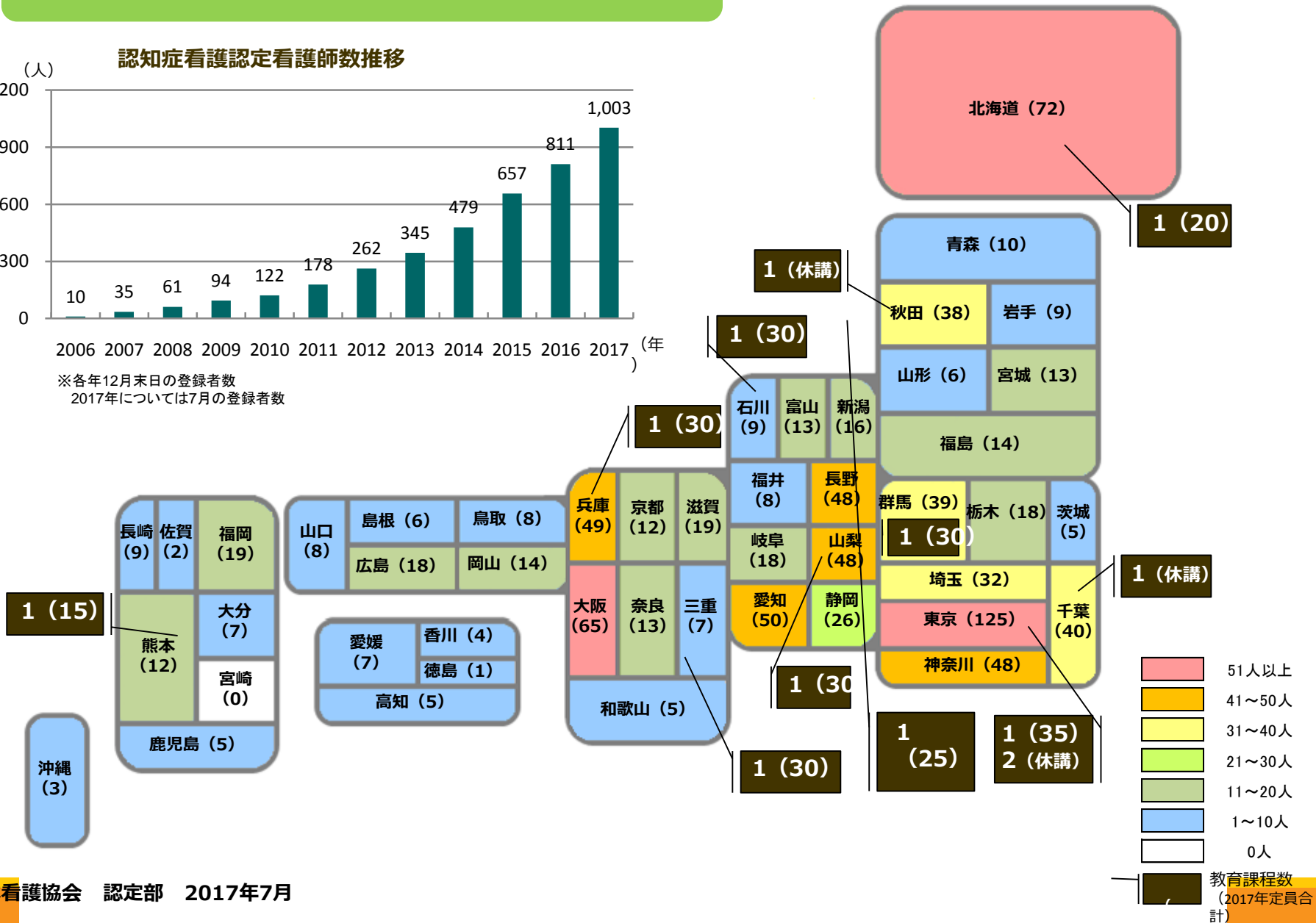


日本看護協会の 認知症への取り組み

		これまでの実績
教育・研修	すべての看護職の認知症対応能力向上と、高度専門家の育成	<ul style="list-style-type: none">■ 認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師の資格認定： 認知症看護認定看護師 1003名、老人看護専門看護師 93名 (2017年7月現在)■ 診療報酬における認知症加算2の対象となる研修の実施 平成29年度実績 11,300名（看護研修学校）■ 急性期病院の看護師を対象とした認知症研修を実施■ 認知症ケアガイドブックの出版
政策提言	認知症の人を支える方策	<ul style="list-style-type: none">■ 入院中の認知機能やせん妄等の症状悪化を防ぐ取り組みの評価 (平成30年度診療報酬改定要望)
周知・普及	すべての人が認知症を理解する	<ul style="list-style-type: none">■ 地域住民・多職種対象の勉強会等の企画、実施 (平成27,28,29年度日本看護協会委託事業として： 全国20カ所に委託)

認知症看護認定看護師数 1,003名

認知症看護認定看護師数推移



提言を踏まえた今後の課題

(1) 職種や機関間の連携推進

① 初期段階の相談に応じる専門職の対応力の向上

認知症看護認定看護師、老人専門看護師、認知症の研修を受講した看護職が医療機関に従事していることが多いが、職能団体としても、初期集中支援チームに参加しやすくなるために医療機関の看護部長等管理職に周知するよう、一層取り組んでいきたい。

同時に、こういった専門性の高い看護師が初期集中支援チームへ参画、あるいは、チーム活動をバックアップできるよう、市町村から病院へ要請していくなどの後押しがあることが望ましい。

その他、本会としては、引き続き認知症ケア加算2対象研修を実施していく。